

ゾフルーザ未使用の患者検体からの ゾフルーザ感受性低下インフルエンザウイルスの検出について

感染症の監視体制

インフルエンザは、感染症法の五類定点把握疾患に定められており、法に基づき、全国的に、感染症発生動向調査による監視（サーベイランス）が行われています。

横浜市では、衛生研究所を感染症情報センターと定め、毎週、決められた小児科および内科の患者定点医療機関から、患者の発生数の報告を受け、国に報告するとともに、そのデータを解析して公表しています。

あわせて、決められた病原体定点医療機関（患者定点医療機関の約1割程度）からは、患者の検体が、定期的に地方衛生研究所に搬入され、インフルエンザウイルスについての検査を行っています。

今回の経過

横浜市衛生研究所では、感染症発生動向調査の一環として、収集された検体からインフルエンザウイルスを分離するとともに、これらのウイルスについて遺伝子解析を行い、ワクチン株との一致性や薬剤耐性等について情報提供しています。

今回、2019年1月にインフルエンザにより入院中の5歳と6歳の小児から採取された検体からゾフルーザに対する感受性が低下する遺伝子変異がみられるウイルス（ゾフルーザ低感受性株）を2例検出しました。

そのうち5歳の小児の症例は、ゾフルーザ未投与でした。感染源は不明ですが、家族に先行して発症した人がなく、発症前に通園していた幼稚園ではインフルエンザの集団発生がありました。この症例はゾフルーザ感受性低下株が人から人へと感染した症例であることが推察されます。

横浜市では、薬剤感受性に関するモニターの必要性がさらに高まっていることを認識し、今後も国の感染症発生動向調査の中で、インフルエンザウイルスの遺伝子解析等を継続し、薬剤感受性に関するモニターを行います。

Q & A

Q 横浜市で、ゾフルーザが効かないインフルエンザ（ゾフルーザ耐性インフルエンザ）の流行があったのですか。

A 前回、平成30年12月に横浜市内の小学校2校で発生したインフルエンザ集団感染事例の検体から、ゾフルーザ感受性低下ウイルスが検出されていました。この2検体の患者はいずれもゾフルーザを投与されており、患者の体内で投薬をきっかけにゾフルーザへの感受性が低下した変異ウイルスが選択されて出現した状況と考えられました。

一方、今回の5歳の症例はゾフルーザの投与がなく、当該児は初めからゾフルーザ感受性低下ウイルスに感染したと推察されます。ゾフルーザ感受性低下ウイルスの人から人への感染が起こったことが示唆され、今回市内で感受性低下株の流行があったのかは不明ですが、流行しうることが示唆されたと言えます。

Q ゾフルーザが効きにくいウイルスは他の薬も効きにくいのですか。

A いいえ。今回のゾフルーザ感受性低下ウイルスにも、これまでインフルエンザの薬物治療として用いられてきた、ノイラミニダーゼ阻害薬（タミフル、リレンザなど）は通常の効果があることが国立感染症研究所の検査によって確かめられています。

Q ゾフルーザ感受性低下ウイルスにかかると重症化するのですか。

A ゾフルーザ感受性低下ウイルスについては、まだ分かっていないことも多いのが実情です。今後、臨床現場の症例データが蓄積されていく中で症状との関係についても調査されていくものと思います。

Q ゾフルーザ感受性低下ウイルスにかかっていないかどうか、調べる方法がありますか。

A ウイルスの薬剤感受性に関する検査は一般的に行われている検査ではなく、衛生研究所などの専門機関で、病原体サーベイランスとして実施されているものです。個別の検査は行っていません。症状等でご心配なことがあればまず主治医にご相談ください。

Q 今後横浜市ではどのような対策をとるのですか。

A ゾフルーザへの感受性の低下したインフルエンザウイルスの出現について、引き続き注意深いモニターを継続していきます。
また、ゾフルーザ感受性低下ウイルスが検出された事例については、個別に経過を聞き取り、情報を集積していきます。
なお、これらの検出状況等については、横浜市医師会、横浜市病院協会等の医療関係者あてに地域での診療の参考として情報提供しています。

Q ゾフルーザ感受性低下ウイルスに感染しないためには、どういうことに注意したらいいのですか。

A 基本的なインフルエンザ予防、感染拡大防止の対策に変わりありません。
ウイルスが体外に排出されうる期間、一般的には発症後5日間は、症状が改善しても、学校や会社を休むことや咳エチケット等を心掛ける必要があります。予防としては、通常のインフルエンザと変わりません。ワクチン接種のほか、外出時のマスク、帰宅時のうがい・手洗いを心がけるとともに、栄養バランスや十分な睡眠など規則正しい生活に努めましょう。また治療や登校・入社などの外出については、主治医に相談し、その指示に従いましょう。

Q インフルエンザのワクチンは、ゾフルーザ感受性低下インフルエンザウイルスに効果がありますか。

A インフルエンザワクチンの効果は、ゾフルーザ感受性低下ウイルスでも変わらないと考えられます。
(ゾフルーザの感受性に関する変異は、インフルエンザワクチンの作用機序とは直接関係の無い部分に生じていることから、ワクチンの作用は変異前のインフルエンザウイルスへの効果と変わらないと考えられています。)

ゾフルーザ感受性低下ウイルス検出の論文等については、こちらでご覧になれます。

・国立感染症研究所 IASR（病原微生物検出情報）

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/flu-m/flutoppage/593-idsc/iasr-news/8664-470p01.html>

横浜市健康福祉局 健康安全課 (TEL : 045-671-2445)

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 (TEL : 045-370-9237)
微生物検査研究課